

第1回 新清掃工場等の啓発施設整備に係るワークショップ

報告書

1. 開催日時：平成26年12月6日（土） 午後1時30分から午後4時30分

2. 開催会場：浜松市西部清掃工場 環境啓発施設「えこはま」会議室
 (浜松市西区篠原町26098-1)

3. 参加者状況：32名、浜松市担当課職員 3名

担当課職員：専門監 市川智一（挨拶）、山口佳伯、松本佳巳
 司会：荒木信幸、ファシリテーター：松田 智
 受付：藤田由己、外山直美

班名	リーダー	環境審議会ごみ減量部会	下阿多古地区	一般公募
サクラ	小楠 一	安間 清弘		新井 康久
				市川 美鈴
				内山 ゆきゑ
				千葉 悠介
キンモクセイ	岩田 政行	土屋 京子	野中 賢一	酒井 純
				古橋 和子
				吉川 徹
モミノキ	野中 正子	土橋 登巳代	和田 憲治	岩田 浩輔
				岩田 康昭
				竹澤 隆国
ドウダンツツジ	高根 侑美		小柳 啓幸	飯尾 美行
				長谷川 雄将
				森廣 紀昭
クロモジ	高根 美保	村山 孝司		加藤 正裕
				瀬崎 秀五
				米津 健次

4. 報道関係者：1名 (株) 建通新聞社静岡支社 浜松支局

5. 内容：

- (1) 新清掃工場の建設予定地説明
- (2) ワークショップの目的と各回の内容の確認
- (3) ワークショップの進め方説明
- (4) 全国の啓発施設例の紹介
- (5) 参加者自己紹介
- (6) グループ会議

論点1：本ワークショップの趣旨説明が理解されているかの確認

論点2：新清掃工場に附属される「啓発施設」って、何？

(=啓発施設とは、如何にあるべきか?)

- (7) 各グループ発表
- (8) ファシリテーターまとめ

6. 報告書：表紙 事務局 高根作成 2枚

報告書 ファシリテーター 松田作成 1枚

各グループ報告書 グループリーダー作成 5枚

7. 会場の様子



司会：荒木信幸



挨拶：市川智一



松田ファシリテーター



ワークショップ説明



参加者自己紹介



ドウダンツツジ班



クロモジ班



ファシリテーター まとめ



閉会 挨拶

各グループとも初回から意欲的な提案が数多く現れ、ワークショップというイベントに初挑戦の方々も多かった割には、盛り沢山の成果が得られたと評価できる。ほぼ共通している点は、立地場所の関連から、施設への交通アクセス手段や、如何にして多くの人たちに来場していただくかという点を重視していたことで、これは本施設のあり方を考える上で欠かせない視点である。

一方で、設置理念に関しては、議論しなかったグループもあったが、全体的に議論がやや希薄だったように思われる。論点2に挙げられていた「啓発施設とは、如何にあるべきか?」「そもそも『啓発』とは?」の観点に関してである。その中で「キンモクセイ」「ドウダンツツジ」グループなどで、啓発のあり方として、単に来場者に教育・啓発するのではなく、自ら学び気づく場としての施設という理念を掲げたことは注目される。惜しむらくは、もう一步、その「啓発の中身」に迫る議論があれば、さらに充実したワークショップになったであろう。

施設の 設置理念 に関して	サクラ班	今回、議論していません
	キンモクセイ班	市民、来場者が自ら環境、エネルギー、自然について学び体験できる施設。
	モミノキ班	森の中の清掃工場。
		行ったら楽しい、行ったら得をしたと思えるもの。
		にぎわいの創設 多くの人が利用できるもの。
	ドウダンツツジ班	「ライフ・スタイル」の在り方を教育。
		生活するためのエネルギー源は共有
		緑の中の啓発施設らしい視点で
	クロモジ班	地域に喜ばれる施設に
		地球環境にやさしい取り組み
		地球にやさしい施設と体験

次回は、啓発施設としての理念的な中身をもう一段深めながら、初回で得られた成果を基に、周辺環境の条件と照らし合わせながら各グループで具体化する作業へと移行してゆくことになる。

各班のまとめから、次回に期待する事をまとめましたので、参考にしていただけましたら幸いです。

サクラ班	豊かな発想の8項目の中から重点項目を更に深めて、まとめにある「啓発」を活かせる内容の掘り下げに期待します。
キンモクセイ班	施設内でのイベントを中心に「遊び・学び・集える」場所をテーマに更に掘り下げた内容に期待します。
モミノキ班	周辺環境を利用した、地産地消を活かす具体的な内容の検討に期待します。
ドウダンツツジ班	「森のエコパーク」構想で市民が気付きを得る場所としての具体的なプログラムの運営を含めた内容に期待します。
クロモジ班	「集客」を柱とした啓発施設の具体的なプログラムに期待します。

以上

新清掃工場等の啓発施設に係るワークショップ 第1回目

サクラ班 (グループリーダー: 小楠 一)

テーマ	市民が積極的に利用し、かつ浜松市のごみ政策(ごみ減量、リサイクル等)に対する意識啓発が効果的になされるハードとソフトについての意見
理念	今回、サクラ班では議論しておりません
イベントの開催	・市民が来たくなるイベント 地元の人達との交流・体験・応援
	家族で楽しめるイベント
	学生企画の交流イベント
	・地元が喜ぶイベント
	植林・間伐・田植などの体験・手伝い
	地元の人達との交流 (話を聞く場)
	・山を活かしたイベント 魚釣り・虫取り・炭焼き・竹細工など
教育・講座	環境教育 (3Rの推進・資源リサイクル等)
	学校 (小中高) との連携 (教育・講座)
	アート (芸術)・オブジェ (心に残る)
地元活用連携	農林業への市民応援 (草刈・植林・間伐)
	地元の物産・食育 (いのしし・鹿) の利用
	ツアー (周辺施設めぐり・地域イベント参加)
エネルギー利用	工場廃熱の利用 (温室・温泉・地元へ供給)
	太陽光発電・小電力発電 (風・水・川) の室内や駐車場照明などへの利用・・・省エネとエコエネをPRする
施設	処理・リサイクル・ショップ等がワンストップ対応できる施設とし啓発施設も清掃工場とつながり手段が無い・・・シャトルバスなどは
交通	
運営	場内ルール (大人・子供・若者・老人対応)
その他	広報 (スタジオ・廃棄物の数値・ライトアップ)
	周辺被害無し工場 (ダクトシ・煙や臭いなど)
	施設を見学したらお土産がもらえる
	環境蒙施設は、もっと人の集まる所に作った方が効果大では (工場併設ではなく)
まとめ	多くの市民に来てもらう施設にすべく、地元の人や資源を活かしたイベントを多く用意する
	エネルギー利用は、工場の廃熱 (温泉・温室へ) とソーラー・風水等の小エネルギー (照明など) を行って、省エネ・エコエネの啓発に結びつける
	工場は周辺へ害を出さないものとし、エコ処理と啓発がワンストップでサービスできる所とする
	施設は、場内ルールを設けて適切な運営を図ると共に、小中高の学校などと連携し、未来のエコにつなげる



新清掃工場等の啓発施設に係るワークショップ 第1回目

キンモクセイ班（グループリーダー：岩田 政行）

理念	市民、来場者が自ら環境、エネルギー、自然について学び体験できる施設
施設	建物の外観を周囲の自然にマッチングして、景観を損なうことなく人目を引くような清掃工場と啓発施設に
	地域住民が集まり利用できる施設にしたい
	キャンプやバーベキューも出来宿泊も可能な施設
	公園、ハイキング・ジョギングコース、自然観察できる遊歩道の整備
	鹿・イノシシ等 害獣駆除後の解体処理場を併設する エコクッキングの為に厨房とレストランを作りたい
エネルギー利用	廃熱利用の足湯と温室
	ミニ動物園と淡水水族館
	間伐材を使って子供向け木工教室
仕掛け	コミュニティバスの運行
	最寄りの駅にレンタサイクルを用意する
	獣肉と温室で獲れた野菜や果物を使ってエコクッキング教室を開催する
	子供向けに森の樹木名探しのクイズ式のスタンプラリーの開催

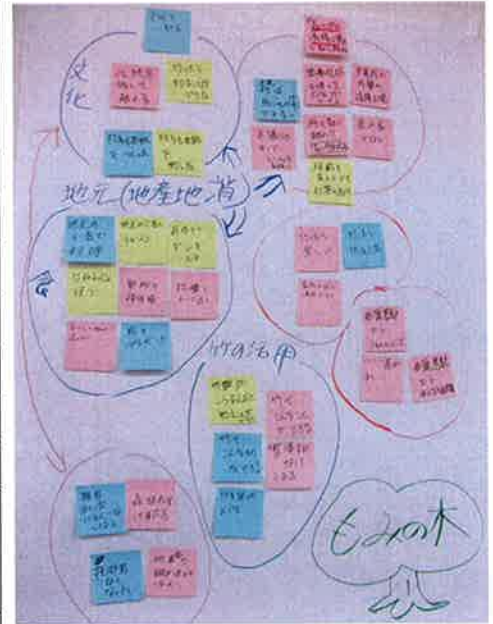


まとめ	「一度だけ」ではなく「二度、三度と」何回でも来なくなる啓発施設を作りたい。情報を与えるだけではなく自らが見て体験して学ぶ場所を目指す。
	来場者も可能な限りCO2削減の為に公共交通機関を利用して来れるように最寄りの駅からレンタサイクルを用意し、コミュニティバスを地域に巡回させバス停以外でも乗降が出来て森林公園やあらたまの湯など周辺施設にも行け地域住民も利用できるバスしたい。
	森林のテーマパーク的な施設として、子供、大人、お年寄りも楽しく「遊び、学び 集える」場所にしたい。
	定期的にミニマラソンやジョギング市民大会を開催したり、自然観察ウォーキングラリーが出来たり「もったいない市」を開催したり、色々な目的で様々な市民が訪れてくれる施設を目指したい。

新清掃工場等の啓発施設に係るワークショップ 第1回目

モミノキ班 (グループリーダー：野中正子)

理 念	森の中の清掃工場	
	行ったら楽しい、行ったら得をしたと思えるもの	
	にぎわいの創設 多くの人が利用できるもの	
施 設	天竜杉の外観の建物	
	引きこみ道路には木張りのガードレール	
	肉の解体のできる施設がほしい	
地産地消	文化	行ったら知ることができた
		伝統を残して触れることができる
		阿多古和紙を知った、作った
		天竜杉の工作
	食	地場産で料理 地元の小麦でうどんを打ち、阿多古川の鮎で出汁をとり、自然薯、地場の野菜を添える
		近くの牧場でチーズ体験 (大橋牧場との連携)
		動物の解体場 肉をプレゼントする
	竹活用	竹を知ることができる (竹の知識)
		竹を使った工作
		竹でこんなものができる
アクセス	いい道がほしい (森の中に導入する道)	
	西鹿島からシャトルバス	
	西鹿島から使える交通	
地元の課題	技術者不足で、地元の木材が使えない	
	田んぼ作る人いない 後継者不足	
	間伐、下刈りの技術指導	
	作物を荒らす猪、鹿の解体施設がない	



まとめ	<p>清掃工場の立地条件、豊かな自然を活かし自然に触れて新清掃工場とその周辺をごみで汚さなくてもいい学習施設整備を考えたい。</p> <p>訪れる事でごみ減を自ら学べる環境整備。</p> <p>その上で過疎になった地域にもう一度にぎわいを取り戻し、家族みんなで訪れ楽しめる場としたい。</p> <p>森の中の清掃工場、森にふれる。 行ったら楽しい、行ったら得をするところ。</p> <p>地元の文化に触れ、阿多古和紙、天竜杉、竹林を活用した体験ができ地元の美味しい食材を調理して食べられるところがほしい。</p>
-----	--

新清掃工場等の啓発施設に係るワークショップ 第1回目

ドウダンツツジ班（グループリーダー：高根侑美）

理念	「ライフ・スタイル」の在り方を教育
	生活するためのエネルギー源は共有
	緑の中の啓発施設らしい視点で
	地域に喜ばれる施設に
施設	インフラを利用した森のエコパーク
	新清掃工場のエネルギーや熱で 100%運営
	宿泊施設の併設
エネルギー 利用	足湯
	施設内照明
	エアコン
	案内板（電子パネル）
	ニジマスの養殖
	水族館の運営
	電気自動車の試乗体験
	間伐材の活用
立場	市民中心
	市民のネットワークの場
	環境対策に関する意見交換の場
	最新の環境情報の発信拠点
	ごみの捨て方に対する教育指導
その他	ごみは施設内で完結
	周囲施設との連携・差別化
	ごみ持込みに対する何らかの見返り



まとめ	「啓発施設」とは、施設関係者が来館者に対して啓発する場ではなく、様々な経験を通じて自分自身で気づきを得る場である。
	新清掃工場のインフラを最大限に活用した森の中の一大テーマパーク「森のエコパーク」を建設し、工場から出たエネルギーや熱で 100%運営可能な啓発施設を目指す。
	市民中心の運営を基本として、市民同士や市民と専門家との意見交換する場を提供、環境政策やごみに関する最新情報を発信する拠点となる。

新清掃工場等の啓発施設に係るワークショップ 第1回目

クロモジ班（グループリーダー：高根美保）

理念	地球環境にやさしい取り組み
	地球にやさしい施設と体験
目的	集客
	ターゲットは、県内・愛知県
施設	レクリエーション施設⇒温泉
	営業時間⇒ナイト営業
	堆肥化プラント⇒堆肥の配布
	植物工場＝熱＋電気（LED）＋CO2 削減
	エコッキング⇒ジビエ料理（鹿・猪等）
	廃プラの油化
仕掛け	企業・学術とのコラボ
	ラボの貸出⇒ごみに係る研究開発
	CSR の紹介⇒企業の実例の一括展示
	エコの社員教育
	情報体験⇒フェイスブックなどの活用
	季節のプログラム
	大人の工場見学⇒ツアー観光
森林体験の 拠点	間伐材の利用
	地元天竜の FSC の建物
	天竜ペレットストーブ
	バイオマス発電、小水力発電
	灰の利用
	ツリーハウス、ツリークライミング
まとめ	集客を中心とした施設づくり。 観光施設として利用。新東名浜松インター の利用や周辺観光とのコラボができる施設 づくり。
	浜松市の 3R 取り組みや地元企業の環境の 取り組みが全てが分かる。また、展示ブ ースの貸出や体験会の開催等で収益事業も含 めて考えられる施設づくり。
	地元の活性化策や産業に配慮した施設づく り。

